

山岳友の会会報

2022年1月 第42号



第53回現地研修会（苗場山） 撮影：田下 逸男

もくじ

年頭のご挨拶	会長 山口 孝……………2
第53回現地研修会（苗場山）	報告1 竹原 文子……………2
	報告2 竹重 聡……………4
第19回憧憬の森講演会・会員交流会	報告 小林 久雄……………5
明神養魚池メンテナンス（21.10.23）	報告 小林 久雄……………6

年頭のご挨拶

友の会会長 山口 孝

友の会の皆様、新年明けましておめでとうございます

昨年は多くの行事や山行にご参加いただきありがとうございました。本年も皆様と共に、明るく楽しい研修会を開催してゆきたいと願っております。



前年の山を振り返ってみます。ヘリで4月中旬に入山するようになって50年経ちましたが、ヒュッテの赤い屋根が半分見え、これほど少ない残雪は初めての体験でした。しかし、入山後は山の帳尻を合わせるかのように連日吹雪となり、屋根が全て埋まってしまいました。連休前には、テント場間近まで雪崩が飛び込み、5月7日には本谷橋手前まで大雪崩が出て肝を冷やしました。改めて、雪崩の怖さを嫌というほど痛感した小屋開けシーズンでした。

お盆の頃は大雨に見舞われ、キャンセルが続出しました。秋の紅葉の色づきはいまいちでしたが、台風が逸れた為、予定通りの入山者でした。コロナ禍であっても、山の世界は天候次第で入山者が変動すると思われ知らされた一年となりました。また、大雨の度に登山道が流され、松本市をはじめ行政の皆様にご迷惑をおかけしました。

山の神様、今年はどうぞお手柔らかにお願いします。

苗場山山行

—第53回現地研修会（苗場山）報告 その1—

竹原 文子

秋山郷には何度も行っているが、まだ登っていない苗場山。一度は登らなければと楽しみにしていました。



前泊して準備万端と張り切っていたのですが・・・。

前日温泉に行ったら、地元の人からお山は雪だよと山頂の写真を見せられました。真っ白です。

ヘタレの私はググーとテンションが下がり、曇や雨の中登るのはきついなあと、一緒に泊りの村重さんと温泉巡りでもするかと話していました。予報は雨になっています。

ところが、よほど友の会の人たちの行いが良かったのか、予報が外れ、まあまあの天気になってきました。これは登らなければ女がすたります。

という次第で、翌朝3合目駐車場から参加者17名勇んで出発です。

例によって健脚組はどんどん進んでいきますが、こちらは自分のペースでちょこちょこ。

足元は悪くなく昨日の雪は大丈夫そうだと思っていたのですが、5合目を過ぎたあたりから雪が現れました。





滑らないように慎重に登って行きますが、今度は急登の鎖場です。雪が付いていて滑りやすい。こんな鎖場が数ヶ所続きました。
天候は回復して青空が見えています。

やっと鎖場が過ぎ、急登を登りきると9合目湿原。大小の池塘が点在する美しい湿原は、頑張ったご褒美のようなところでした。

雪の残る池塘に群青の空が写り、遠くに雪を抱いた山々が目に入ってきます。北の山々はよく分からないけれど、青空のもと輝いています。どこを見ても絵になります。

あちこちに広がる池塘にミヤマホタルイが群生していて、あたかも苗場のように見えますともいわれます。きっと花の季節には一面に高山植物が群れ咲き、思うだに胸が躍ります。これはぜひまた訪れなくては。
木道の踊り場で一休みし、遠くまで続く木道を山頂ヒュッテ～山頂を目指します。歩きやすい立派な木道が延々と続いています。意外と長かったけれど、周囲の景色に見惚れて先に進むのが惜しいようです。ただいったん林間に入ると、昨日の雪が残っていて滑りやすく少々てこずりました。林間を出てから途中に山の神さまをお祀りした石碑がありました。昔の人はこのお山を崇め、山の恵みに深い感謝の念をいただいていたのでしょうか。厚い信仰心の表れを見たような気がしました。



少し風が強くなってきて山頂が近づいたようです。山頂小屋のベンチで、健脚組が休憩していました。すでに一杯やったのかも？全員が集合してから昼食をとりながら雑談して、その後少し先の山頂で記念撮影。山頂といってもなだらかな丘みたくて、印がなければ見逃してしまいそうです。



下山開始。湿原は緩やかに下っているだけなので安心ですが、その先はまた急降、鎖場。下りの方が事故が起こりやすいからと緊張の連続。上る時は雪だったが、下りは融けて滑りやすい。帰ってから確認したら、山頂まで上り3時間半、下り3時間でした(健脚組はおそらく上り下りとも、それぞれ1時間は早かった)。帰りは5合目あたりから、登山道周囲のネズコの大木に感嘆したり、雪国の植生を観察したりしてのんびり下りてきたから、健脚組のみなさん、お待たせしてすみませんでした。思いがけず雪と青空のコラボで貴重な経験をさせていただきました。楽しい山行でした。
みなさん、お疲れさま。そしてありがとうございました。

苗場山 17 人登行記

—第53回現地研修会（苗場山）報告 その2—

竹重 聡

長野県は本当に広い。南信の遠山郷に 30 年以上縁のある私は、長野市に住んでいるのに新潟県境の山はあまり行ったことがない。だから今回の秋山郷の山行きの計画は、すぐに前向きになった。若い時からあれだけ山が好きで、国内の山々を登ってきたが、恥ずかしいことに、苗場山が百名山であることを知らなかった。

小布施で堀内さんに乗せ、宿泊する民宿出口屋を目指して、ひたすら走らせたが、集合時間7:30に10分も遅れてしまった。秋山郷に至る405号線は長くて遠かった。細萱さんが出口屋で待っていてくれて、小赤沢3合目駐車場奥の登り口に、小林さんも心配して待っていた。山はことのほか晴れ渡っていた。ほかの仲間はどうに先を歩いているとのこと。一緒に3合目をスタートして、階段を登り、泥濘の道をサイドに避難しながらの繰り返し歩行、声が近づ



いて安心すれば別の登山者グループ、滝沢さん、澤田さん、上條さん、出澤さんと合流した後、やっと補助鎖の付いた岩登りが始まる手前で、先行の仲間に出会えた。竹原さん、田下さん、鈴木先生、山口会長、渡邊さん、村重さん、熊谷さん、立花さん、横田さんがこちらを見て言った。「早く来たね」「あれ、堀内さんは？」話をする間もなく、出発して行った。氷の緩んだ足場の悪い岩登りは体力的に嫌だった。この先ほとんど一直線の岩登りで、ステンレスの鎖が長く続いた。

スタート直後から冬到来とあって、常緑性のシダ類が出現した。中でもヤマソテツは湿地帯に出るまで、太いチシマザサとともにとても多くて驚いた。雪深い山間だからだろう。皆さんご存知ですか？沢山食べられるシダがあることを。中でもこのヤマソテツは、今まで試食したシダの中でナンバーワン、油もの類と一緒に食べると天下一品だ。竹原さんが「ラーメンに入れたらとても美味しかったよ。」と言った。ヤマソテツの旨味を既に知っていたとは！2番目がジウモンジシダかな。慣れ親しむクサソテツ別名コゴミも美味しいが別格だ。とにかくヤマソテツは脂っこくて旨いのだ！



その途中、上條さんが指したコケはゴレツミズゴケで、亜高山上部斜面から高山の日当たりのよい周辺もしくは高層湿原に生える蘚苔類である。

登りきると、目の前に一面の青空が広がった。遠くの山の頂にガスが水平にかかっていたが、雨が降る気配は全く感じられなかった。ビックリするほどの広い湿原だ。木道の配置と木道滑止めのデザインが印象に残った。遠くの山並み、遥かに遠くの北部北アルプス、槍ヶ岳奥穂高の連山、見える山すべてが美しかった。緩やかに進むとハイマツ針葉樹林帯に入った。木道が大小の大岩の連続歩きとなり、雪と氷が邪魔をして、とうとう片足をシャーベットの溜水に、くるぶしまで落とした。さすがに冷たかった。そして両手も、溶けた雪で濡れた軍手の指先は、もっと冷たくて、木道の先のほうに苗場山ヒュッテの屋根が見えたときは嬉しかった。

小林さんが素手で登り切った頑丈な両手は、すごい手だ。冷たくないそうだ。彼は wild man だ。Smiling Mountain climbing Boy だと思った。6,7 年前に、彼とは南アルプス深山の尾根



筋で偶然パワフルな対向出会いをし、その時に山の男だと思ったからだ。

苗場山ヒュッテのウッドテーブルに向かう木道から仲間が見えた。みんなが私たちを笑顔で歓待してくれた。既に 2 本のワインでテーブルは盛り上がっていた。鈴木先生、山口会長等にやっと挨拶ができてホッとした。甘くて美味しい赤ワインは、山にピッタシのジュースで感動した。渡邊さんがテーブルごとにシャッターを押し続け、み

んなの会話も絶好調となった。

そこへなんと梶澤さんと北信森林管理署長と新人らしい女の子の 3 人が、ヒョッコリと姿を現したのだ。絶妙なタイミングだった。誰かが「おいおい、併せて来たな」と更に場が盛り上がった。最高の頂上風景となり、ガスが時折流れ、最高の天気が続いた。なんと前日まで雨予報だったのに、この 17 人に雨女・雨男は全く居なかった。16 人に感謝である。



そしてもう一つ感謝があった。下山した駐車場での出来事、立花さん、鈴木先生からのおもてなしの一言、「この道の下がったところにさ、橋の手前左にブラシがたくさん下がってるから、靴を洗ってこいよ?」、泥んこの靴がピカピカになった。こんな山の中で『栄村のおもてなし』、



初めての経験だった。初めよければ終わりよし。さらに 9 km も離れた温泉も、湯加減がちょうどよく、冷えた身体をうるおしてくれた。宴会は 2 会場となったが、2 次会は光栄荘二階で合同会議となり、来年に向けていろいろなオピニオンが出て、思い出のタベとなった。出口屋は夕飯で、地産地消の鹿肉料理と熊肉、漬物と山菜と山の幸が盛りだくさんで、全員がご飯を一口も食べなかった。「またここに来たい」と思う民宿に出会えた。皆さまお疲れさまでした。幹事さんありがとう!

2021 年 10 月 19 日(月)・20 日(火)の民宿の 2 軒とメンバーはこうです。

光栄荘 : 小林、滝沢、鈴木、竹原、村重、山口、田下、渡邊、横田、熊谷

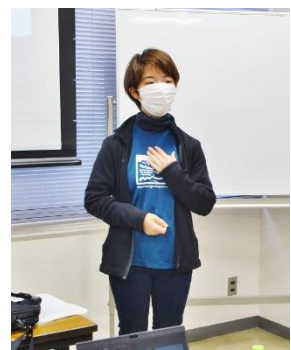
出口屋 : 細萱、堀内、竹重、澤田、立花、出澤、上條

さて明日は 8:30 の出発、行程はどうなるんだろう。

第 19 回憧憬の森講演会・会員交流会報告

小林 久雄

令和元年12月5日に56歳で圭子さんが亡くなられて2年。
『お一人お一人と結ばせて頂いたご縁は、妻の宝です』
第19回憧憬の森講演会は蝶ヶ岳ヒュッテの中村梢さんにお願ひしました。





35人もの参加で若き社長から素敵な写真と元気な語り口でお話いただきました。

突然の不幸とバトンタッチされコロナの到来の中ご苦労されての山小屋の事など...事前予約制と感染対策など...大変な日々の連続に若いとはいえ大変なご苦労かと感心しました。

特に予約キャンセルや突然の山小屋利用希望に日帰り登山やテント宿泊急増など課題は多くご苦労の様子がよくわかりました。

雄大なアルプスの眺望に高山の花や動物で人気の蝶ヶ岳ヒュッテならではの工夫。

若さだけではどうにも大変な事もお話で良く理解出来ました。

素敵な蝶ヶ岳ヒュッテの益々の繁栄をと思わずにはられません。

講演後は凡蔵にて久々の忘年会で盛り上がり、楽しい一日になりました。

【写真：荻野 秀夫】



明神養魚池メンテナンス（21.10.23）報告

小林 久雄

穂高に雪が積もった10月23日、明神養魚池メンテナンスをしました。

参加は、荻野さん田下さん滝沢さんと小林の四人組です。

水抜きして、昼食は天麩羅うどんにビール。

少し寒いけど溜まった落ち葉を一輪車に10杯かほど、ドロは6月の成果か意外と少なかった。

4時迄で寒くなったので、田下家の大根など炊いて手作りおでんを作成。

学生さんふたりを加え疲れを癒しました。

後はいろいろで慰労会をして終了しましたが、翌朝は特に冷え込みました。

池は綺麗になったのでお魚さんは喜びそうです。



【写真：荻野 秀夫】

信州大学山岳友の会会報 第42号
発行日：2022年1月11日
発行：信州大学山岳友の会
〒390-8621 長野県松本市旭 3-1-1
信州大学山岳友の会事務局
TEL：0263-37-3332
FAX：0263-37-2438
E-mail：suims@shinshu-u.ac.jp